

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	多機能型事業所 えんじょいんと		
○保護者評価実施期間	令和6年12月1日		令和7年1月31日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	18名	(回答者数) 11名
○従業者評価実施期間	令和6年12月1日		令和7年1月31日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	5名	(回答者数) 5名
○事業者向け自己評価表作成日	令和7年2月15日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	こどもの活動スペースが十分広く確保されている。	全体的なスペースをできるだけ広くとる為に、パーテーション等の区切りは最低限に抑え、またクールダウンのルームも作成して広々とした活動スペースを提供している 逆に広いがゆえに起こる事故や怪我の防止に角部分の保護や、丸テーブルの利用等で受傷事故を防止している。	運動面ではスペースが確保されているが、机上課題についてもスペースを確保し、運動と机上課題両方が安全に提供できるよう取り組んでいる。
2	家族支援として、Zoom等の情報機器を利用したの制度の説明や、放課後等デイサービス、小学校のなかよし学級の説明等、家族の障害理解の支援を実施している。	業務時間内は共働きのご家族様の時間が対応できないと思われるため、夜の20時周辺の時間を設定し、共働きであっても参加しやすいようにZoom等の情報機器を用いて家族支援を行っている。	月1回で、前期に集中した為、通年で実施できるよう拡大を行っていきたい。また曜日を変える等多くの家庭環境に応じた体制を整えていきたい。
3	支援プログラムの中で、本人支援を中心もってきており中学校・高校に向けた自立活動への支援プログラムを実施し、児童のQOLと生活能力の向上をプログラムの中に組み込んでいる。	理学療法士や、保育士、教員等の各それぞれ専門職員の専門分野を活用したプログラムを策定し、また個別プログラムを実施して、個別療育と集団療育を共に実施している。	開所初年度という事もあり、神戸大学の児童の障害を専門とした教授に見学に来ていただき、適宜支援方法についてアドバイスをいただいた。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	保護者会や保護者同士の情報交換をできる場を提供する。	初年度であった為、まずは児童への療育を第一に考え、保護者同士の交流までは体制が追いついていなかった。	1年が経ち、児童への療育手法も安定し、職員体制の加算も整ってきたので、まずはイベントとして保護者同士が交流できるイベントを実施していきたい。
2	安全計画等についての保護者への周知が不足していた。	支援プログラムの中に、避難訓練や安全管理プログラムを何度も実施していたが、通常のプログラムとの差別化ができておらず、保護者への周知がいまひとつの状況となってしまった。	安全管理計画を周知し、施設として適切に対応している旨広報を行いたい。
3	地域支援や地域交流を行う。	初年度で施設としての認知度も低く、外部連携するまでの余裕がなかった。いくつか地域の企業や団体と交流はできていたが、地域・家族様への広報が不十分だった。	1年が経ち、外部との連携を模索し、地域での活動や地域住民と共に活動できるイベントを開催していきたい。